

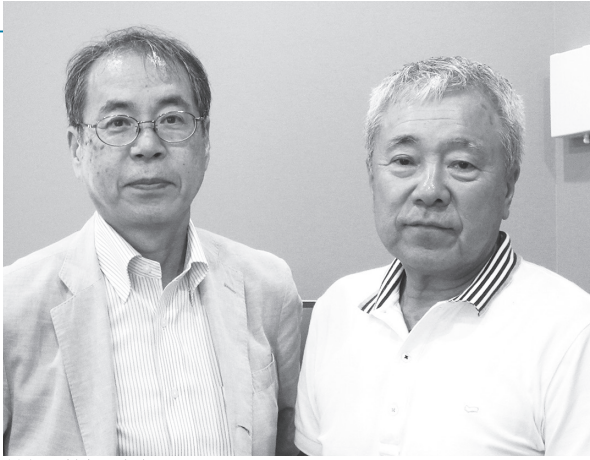
日本エコレザー対談⑤0

渡邊 守夫氏

(有)T.M.Y's社長

稲次 俊敬氏

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)



稲次氏(左)と渡邊氏

世界のトレンドをチエックし日本向けにアレンジ。 豊富な在庫と多彩な加工技術でニーズに応える

染色と仕上げの複雑な工程を消費者にも見てもらう

稲次 いつもこの座談会(対談)をご愛読いただきありがとうございます。

このページは2015年8月号からスタートして今回で50回目になります。

この節目にご登場いただくのは東京・墨田区で染革工場を営まれている有限会社T.M.Y's(ティーエムワイズ)の社長、渡邊守夫様です。本日はよろしくお願します。

昨年11月に大変モダンな新工場を竣工されました。製革業も非常に厳しい環境にあり、廃業も増えています。そんな中での、新工場は大きな話題になっています

ね。

渡邊 コロナ禍で大変な時期なのにすごいね、とか言われるのですが、新社屋・新工場の計画はもう2年半前にあったのですよ。つまり、コロナの前です。昨年2月からコロナ禍になった。でも、もう計画を進めていたので、実行するしかない、ということ、完成に漕ぎつけました。

稲次 ここは旧工場のすぐ近くですね。

渡邊 自分の頭の中では旧工場が仮の姿で、長年もっと設備の整った工場を作りたいという願望がありました。幸運にもこの土地が空いたので建設に踏み切りました。

あともう一つは、娘婿が6年前に革の業界に入って、後継者ができたというのも気持ち的に後押しになりました。

稲次 工場は4フロアですね。

渡邊 Leather Lab Tokyo(レザーラボ トーキョー)という名前を付けて、1階は染色場、2階は仕上げ場と事務所、3階は干し場とシヨールーム、4階は倉庫とラウンジ、床面積は90坪です。





3Fの仕上げ場



ステンレス製の小ぶりなドラムが3機(2F)



新工場の外観



おしゃれなショールーム

稲次 工場は大変モダンでデザインも素晴らしい。床に動線まで引いてあります。こういう工場は見たことがありません。

渡邊 工場内を見てもらうことを念頭に設計しました。というのも、革のことを詳しくご存知の方は、企画関係でもそんなに多くない。当社の革の良さを伝えるには現場を見てもらうしかない、と考えたからです。

革はクラスト(鞣しを終えた染色前の革、下地)と呼ばれるを社内にて染色・加工して仕上げます。加工は起毛・焦がし、ワックス、パ

ラフィン、バインダー、防水と多様で、さらに上から柄入りのフィルムなどを貼るようなものもあります。工程数が非常に多いので、見学されると、「こんなに手が掛かっているのかと驚かれます。やはりサンプル帖を見るだけでは、素材の真の付加価値はなかなか伝わらないものです。

稲次 私は大阪府立皮革試験所に36年ほどいましたが、毎年、消費者やメーカーさんを工場見学で案内してきました。その時、見学の最初に原皮倉庫に案内し、あえて汚れたままの原皮を見せました。それが様々な多くの工程を経て行く、「こんなきれいな革になっていくのかと驚かれます。

今までは革は色落ちするとか、傷があるとかと言っていた人で、革素材は決して高くない」と意識を変えてくれると同時に、革の良さに魅了される姿を幾度となく見えました。

御社は一般向けの工場見学ツアーも予定されているようですね？

渡邊 はい、業者の方だけでなく

一般消費者の皆様にも見てもらえるよう計画しています。10月ぐらいから受け付けられるよう、いまサイトも準備しているところです。

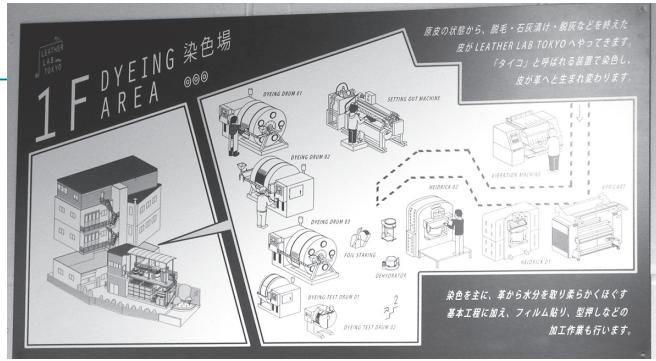
稲次 なるほど、床面の動線だけでなく、各工程に分かりやすい解説パネルを掲示(次ページ写真)しているのはそのためでしたか。

渡邊 なるべく専門用語を使わず、やさしく解説するよう努めました。

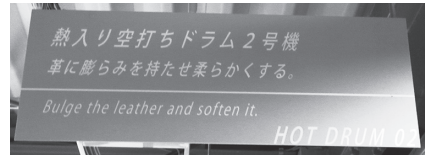
稲次 B to BだけでなくB to Cまでやらなくてはいけないということですね。

渡邊 革の流通は【タンナー↓染色工場↓革問屋↓製品メーカー! 問屋↓売場】となっており、消費者までの距離が非常に遠いです。革のことがよく分からない、と言われるのも当然なのです。

革の工場は汚い、臭いというイメージがありますが、当社の工場はきれいで、臭いもしないことを心がけています。その辺も是非とも見て、感じてもらいたいですね。



一般消費者にも分かりやすい表示



シープスエードは200色をそろえる

スエードは200色、数千種の加工フィルムそろえる

稲次 昔から小判革が専門なのですか？

渡邊 私は3代目ですが、創業して今年で98年になります。昔から小判が専門でした。

祖父が墨田区で革の行商をしていました。戦後、父が葛飾の堀切から墨田に移って来て染色工場を始めたんです。当時はメインがインドの羊革ですね。ヤンピー（羊皮と呼んでいました）

羊の銀付革にスプレーして、黒

とネイビーとワインの3色で衣料用をやっていました。当時は革衣料のブームでどんどん出荷して、大変忙しかつたようです。こっちで染めた革を大阪で縫製していたんですが、縫製技術を韓国に教えたという経緯があります。

稲次 大体そうして産地がさびれていくんですね。

渡邊 いまは墨田も変わって同業の廃業が多いです。

稲次 御社はシープがメインなのですね。

渡邊 シープ（羊）をメインにラム（子羊）、ゴート（山羊）やぎですね。用途は靴用で婦人物を主に6〜7割くらいです。あとは袋物、小物、財布です。

当社は「世界のトレンドをチエックし日本向けにアレンジ」、「豊富な在庫と多彩な加工技術で多様なニーズに対応をモットー」としています。スエードでは200色、加工フィルムは数千種そろえています。

革は流行があります。スエードがいい時と銀付きがいい時と。最近では高級ソーンを欲しがるとい方が増えてきました。例えば、左右色違いのオーダースニーカーとか。世界で1足しか無い靴を求める方が多くなっています。

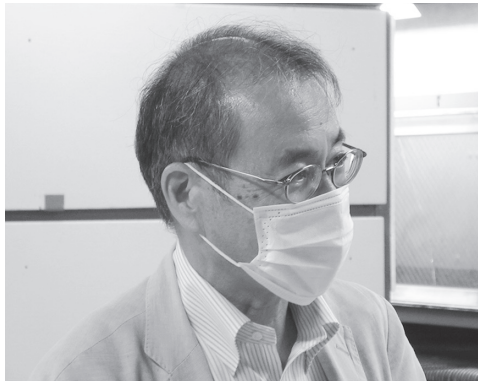
稲次 ロットは1枚からなんですかね。

渡邊 すべて最小ロットは1枚からです。ヨーロッパでは、世界の一流ブランドがイタリアのタンナーなどを抑えている。日本でもタンナーと問屋さん・メーカーさんが一緒になってやれば良いモノが作れます。世界にも出て行けます。

革で自社ブランドを持ちたいんですよ。

稲次 ある地域では、ふるさと納税の返礼品として革靴が採用されています。オーダースニーカーとかおもしろいのでは。東京では、ふるさと納税はやっていないんですか？

渡邊 聞かないですね。



稲次氏



渡邊氏

稲次 浅草の靴メーカーとタイアップして若者が好むような革靴を提案すれば、地場産業として知名度も上がるでしょう。

渡邊 いいアイデアですね。日本タンナーズ協会では自衛隊や警察官の靴に日本の牛革を供給しているという動きがあります。シープでも何かやれないかな。

稲次 いま半導体も国産回帰になっています。皮革業界にもチャンスはあると思います。

「エコレザー」は安心・安全な革であることの証明

稲次 いま日本の製革の分野でもサステナビリティ(持続可能)とかSDGs(持続可能な開発目標)が頻繁に言われるようになりました。新工場はその辺をすごく意識されているように感じます。

渡邊 そもそも皮は食肉の副産物なので、皮革産業自体が持続可能なのですが、これからはそこからもう一歩進めてサステナビリティやSDGsに配慮した革づくり

を実践していかないといけないですね。

当社は排水設備をしっかりを整えていますし、もう以前からクロムフリーの植物タンニン革を多く作ってきました。

いま取り組んでいるのは革を無駄にしないこと。これまで廃棄されてきた残革を使って再生革を作っているところです。

稲次 もう環境配慮の無い革づくりはできなくなってきました。

渡邊 いまLWG(レザーワークィンググループ)の環境認証を取ろうと思つて、排水データを取っている最中です。年明けの3月ぐらい結果がそろい、夏前には審査を受けようとしています。

稲次 日本エコレザーはどうですか？

LWGもお取りになったらしい。ただ、ちよつと誤解されている向きもあるようですが、LWGは革の品質基準の証ではなく、廃棄物や排水の処理、労働環境の整備などに重点を置いています。言い換えると、LWG認定の革

は、適正な工場で作られた革ですよ」という証なのです。

日本エコレザーは革の品質と製革環境の両方が認定の基準になります(次ページ)6つの条件参照。

エコレザーでは染色堅ろう度もチェックしています。色落ちがひどいと、子供さんが革製品を口にくわえた時に口の周りに色が付きます。有害化学物質ではないにしても、これはイメージが悪い。

排水や廃棄物については、日本のタンナーさんは適正に処理されていますから全く問題はありませ

渡邊 エコレザーの認定期間とかはどうなっているんですか。

稲次 認定は5年間有効で、5年後に再度、審査を受けると更新できます。また、基準が守られているかどうか、革製品について抜き打ち検査があります。

消費者に安心・安全を届けるためです。それでは、いままでの革は安心・安全じゃないのかってよく言われます。

[会社概要]

社名 (有)T.M.Y's(ティー エム ワイズ)
所在地 東京都墨田区東墨田3-14-21
TEL03-5680-8189 FAX03-3612-5111
設立 2015年
事業内容 シープ、ゴートの染色・仕上げ加工
生産 約8000枚/月
従業員 14名
URL www.leatherlabtokyo.com

ほとんどの革はおそらく大丈夫だとは思いますが、健康診断し
てないとエビデンスが無いから
保証できない。

認定のお墨付きが付くと、特に
海外に持つていくと非常に有利で
す。これがあったために商談が成
立したというケースは結構あるん
ですよ。

坂本商店さんは「姫路黒棧革」を
ヨーロッパに売り込み入った時、認
定証を見せて取引につながってい
ます。

国内でもこういうものを見せて
商売していくべきです。

最近、メーカーさんからこの認
定を取ってほしいと言われた、と
姫路の日本皮革技術協会の事務

所に問い合わせが増えてきまし
た。

コロナもいずれ収まって、インバ
ウンド客は戻ってきます、彼らは
日本に安全・安心な商品を求めて
きます。安心・安全の裏付けのある
ものがやっぱりほしいのです。

名古屋のバッグ専門店ガルヴァ
の榎まみさんは、日本エコレザー
を使ったオリジナルの革製品コー
ナーを設けています。当協会で作
成した消費者向けの日本語と英
語の啓発パンフレットも置いてP
Rしていますよ。東南アジアや欧
米の人たちに好評で、リピーター
も増えているそうです。

皆様もご活用いただければと思
います。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCR、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値を満たしている
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



※これまでの「日本エコレザー対談」は、
www.japan-ecoleather.jpのトップページの
《業界情報》の項でご覧いただけます。